

第7日

令和5年9月6日（水）

午前10時零分開議

○議長（小島清人君） これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は16名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、5日に引き続き一般質問を行います。

それでは、14番柴山恭子議員の質問を許可します。14番柴山恭子議員。

（14番柴山恭子君登壇）

○14番（柴山恭子君） 皆様、おはようございます。

先日の全協、農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想とは、農用地を利用・集積・集約し、効率的・安定的な農業経営の確立を推進、農業・農村の持続的発展を図るとの説明であったと思います。

これまで、利用権の設定による農地の貸し借りにより、農地の集積が進み、規模拡大し所得を増やすというこれまでの政策、農家の数を減らすやり方では、今後の高齢化や人口減少に伴い、担い手と呼ばれる認定農業者だけでは、地域の農業を維持するのが難しくなると思われます。今のままでは、耕作者が足りず農地の効果的な利用ができず、農家の減少と耕作放棄地はこれからも増えていくと考えられます。農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想の説明が、集積・集約だけでなく、今後の農業の在り方、農地取得の下限面積要件の廃止についての説明も欲しかったと思います。

農業を担う者は、経営の大小を問わず、小規模の家族農業や半農半Xも含むそうです。小さな面積で農業を始めたい人も農家の仲間に加えることができます。長野県松川町では、農地を持たない非農家に農地に興味を持ってもらうことを目的とした、1人1坪農園推進事業が始まり、町内のケーブルテレビで野菜栽培講座を放送。主に子育て世代に向けて、農薬や化学肥料を使わない栽培法を紹介する内容であり、これに刺激を受けた農家や新規就農者が、遊休農地を利用して有機栽培の野菜を学校給食に取り組むようになったそうです。

また、マイクロファーマーズスクールでは、地域の小さい農家が講師を務め、月2回日曜開催の有機農業学校で、専業農家になりたい人ではなく、農業と農業以外の仕事の両立を目指す人向けの講座を開講。受講生は畝5本ずつ割り当てられ、講師のアドバイスを受けながら野菜作りを学ぶ。農産物の販売や農産加工の講座もあるそうです。勤めを続けながら、週末に学べるのがポイント。受講生は働きながら副業的な農業を取り入れた暮らしをしたくて通ってくるそうです。受講料年間18万円と結構高いそうです。

農地の利用集積・集約だけでは、今後の農地を守れるわけでもなく、いかにどうすれば収入を上げ、農業に興味を持ち、農地を守っていけるかは、今後の大きな課題といえましょう。

8月31日、日経新聞によれば、東九州新幹線、日田・由布を通るルート案が浮上とあります。高速道路の上に新幹線ができれば、もし朝倉を通ることができればと夢のようなことを考えます。新幹線が朝倉を通り福岡まで10分ほどで行ければ、水と緑、自然豊かなこの朝倉の地で、農業に興味を持ち生活できるのではないかと、新規就農を目指すとは違う、暮らしに農業を取り入れることを学ぶ場となるのではないかと考えます。自然とともに年間を通して野菜作りを体験できる、そんな朝倉の地に新しい仲間を迎えることができれば、新たなまちづくりといえましょう。まちづくりを考えると、皆さん、わくわくしませんか。

これより質問席にて続行いたします。どうぞよろしく願いいたします。

(14番柴山恭子君降壇)

○議長(小島清人君) 14番柴山恭子議員。

○14番(柴山恭子君) みちづくりとまちづくりについてお尋ねいたします。

昔から思っちょりました、なし386号は4車線でないのかな。もし386が杷木、朝倉、甘木、福岡へとつなぐことができているならば、歩道の整備や水路の整備も終わり、動脈として、また幹線道路として、朝倉市の交通渋滞や事故をなくし、まちづくりにも力を入れることができたのではないかと考えます。

市長、なしじゃろか。

○議長(小島清人君) 市長。

○市長(林 裕二君) 国道386号線、そして今は県道福岡日田線につきましては、御質問はなしじゃろかですか。386号線につきましては……。 (発言する者あり)

それでは、私の考えておりました386号線を含んだ幹線道路としての位置づけ、そしてまた、考え方について述べさせていただきます。

朝倉市の動脈となる道路につきましては、主要な幹線道路の中でも市内全域を東西に走る旧国道386号線、そして、南北に走っております国道322号線と考えております。

道路整備と、議員が先ほど言われましたまちづくりについては、良好な市街地環境を整備する上で、密接に関係しているものと考えております。幹線道路の整備は、交通の利便性、物流の円滑化、地域活性化などの観点から、道路ネットワークの形成を図る必要があると考えております。

踏み込んで答弁させていただきます。

現在、福岡県による旧国道386号の歩道整備、国道322号の道路事業が進められております。市では、国道322号の道路事業による甘木駅周辺のクランク解消を契機とした甘木駅新市庁舎を拠点とし、鉄道や路線バス等で結ぶコンパクト・プラス・ネットワークのまち

づくりを進めているところであります。道路整備、交通ネットワークと地域活性化、地域づくりは、議員が言われますように密接に関係しておりまして、共に大切なことであるというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 林市長だけに言いよるわけではないです。これまで、何で朝倉市には4車線道路を造ろうという考えがなかったのかを聞いております。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 道路の整備の幅員等の検討につきましては、そこの1日当たりの交通量ですとか、あと、まちづくりの考え方、そういったものを総合的に勘案して、必要性であったり、実現性、そういったものを総合的に考えながら整備を進めていくものであるというふうに思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そんなもんですか。交通量がなかったら道は造らん、ほんなら。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私は、これをこのまんま渡しておりますが、くれぐれも横にはそれるなどと言われておりますので、今の質問は横にそれた質問になるんでしょう。

部長にお尋ねします。いいですか。もうさっきのはいいけん。

部長は八女によく行かれますか。八女。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） よく八女方面には行っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 八女インターは今までと逆の方向に下りることができるようになりました。そしてバイパスとつながり、大きく商用地として発展しております。何か、左に下りて左に行くともうバイパスなんです。大きいバイパスが佐賀までつながっております。今までなかった道です。普通は右に下りよったのを左に下りてそこがバイパスとなって非常に発展を続けよる。

大体、八女とうちと何が違いますか。面積、八女は倍まではないけど、400幾つやったと思います。それから人口規模、それから経済、そういうのはうちのほうがずっと勝っていると思いますけれど、八女はこれから発展を続けなければならないと思っているんでしょう。有明沿岸道路にしても、あげな道が大体役に立つっちゃろかっち最初思いました。無料でどんどん。今は有明沿岸道路につながるようにいろんな道を造っています。大体——もう一つ言わないかん。

うちは386バイパスができました。あれが386国道でしょう。大体普通、バイパスができりゃあ、バイパスはえらい発展するもんやん。バイパス周辺ちゅうのはえらい発展する。八女と一緒にですよ。左に下ろしてあのバイパスを通ることで、非常な商業地として発展を

続けよる。でも、386バイパスを見ると、住宅を造る気配もなし、商業機能の活性化に向けて発展を遂げるような道でもなし、大体、あの386は何のために造ったとですかね、バイパス。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 国道386号線、バイパス建設の目的ということだと思っております。

これにつきましては、国道386号線が朝倉市の市街地を通っております、その辺、大型車の通行の増加、そういったことから交通渋滞の緩和、そういったものを目的に造られたものであるというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それだけのためですか。交通渋滞を防ぐためだけのバイパス。あのバイパスを利用してもっと朝倉市を活性化するちゅう考えがいるでしょう。違いますか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 確かに八女を見ますとですね、大きな広幅員道路の両端にいろんな事業所が立ち並んで活力が生まれているというふうに感じております。ただ、朝倉市にあります386号線、この沿線については、やはり農業振興地域ということもあって、土地利用がなかなか進まない、そういったことで、ちょっと八女のバイパスとは違ったような形態になっているものというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） なぜ。なぜ、バイパスを造ろうと思うからには、それなりの考え、交通渋滞の解消だけですか。でも、結構交通は渋滞していますよ。386も渋滞するなら、こっちの国道も渋滞する。それだけのために造られた道ですか、あれは。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 申し訳ありません。その辺の国道386号線バイパスの目的、ちょっと私のほうが勉強不足でそこまでということで、そこら辺の詳しいところの事情は承知しておりません。申し訳ございません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） もっと分からん質問をします。いいですか。

甘木インター、朝倉インター、杷木インター、3つのインターは、朝倉の自慢ですか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 市内に高速道路のインターチェンジが3か所あるということは、なかなかほかの自治体では例がないことであると思っております。交通の利便性、物流の円滑化、地域活性化の観点からも大きな利点であるということで、自慢できるというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 1つ聞きます。

甘木インターが突き当たることの効果は何ですか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 甘木インターチェンジから突き当たっているということでございます。

確かに、甘木インターチェンジに接続しております、これ、都市計画道路の馬場口大町線と申しますけども、これにつきましては、甘木駅から東に延びております甘木駅前線で突き当たりとなっております。

これにつきましては、先ほどの甘木駅前線と甘木インターチェンジの前を通過しております国道500号線につながる道、これを結ぶ重要な幹線道路というふうな位置づけで、その役割を担っていると思っております。その結果、沿道にいろんな商業施設等が立ち並んで、にぎわい、活性化が生まれているというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 本気で思いますか。本気でそげん思いよる。あの突き当たったインターのあの道が、本気で活性化を図る道と思っておりますか。よそのインターを見てごらん。まっすぐ延びて商業地域がどンドンどンドン進んでいますよ。これは武雄もそうです。八女もそうでしょう。大体、甘木インターを突き当てたとは、どんな目的があって突き当てたのか。確かに、322に行く道もあるでしょう、500号線もあるでしょう。でも、あそこで突き当ててしまって、あそこで止まれば、それで終わりじゃないですか。何であんな道を造らないかんやったのかを聞きます。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 先ほどから申しております馬場口大町線については、都市計画道路として、都市計画をもとに決定された道路でございます。

都市計画道路と申しますのが、将来のまちづくりを見ながら、都市計画に合わせた形で、その都市の骨格をつくるような道路というふうな位置づけであるというふうに認識をしております。

先ほども申しましたように、甘木駅から東へ走る道、甘木インターチェンジの前面の道路、その幹線を結ぶ都市計画道路として決定されております。

確かに、議員おっしゃいますように、あそこの交差点がまっすぐ延びれば、交通の利便性も向上するであろうというふうには思っておりますけれども、そういった幹線道路を結ぶ役割を持った道路であるというふうなところで計画されたというふうに認識をしているところです。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） もうちょっとずれば、あんなところに下りらんでもよかったです。第一、今のまんまじゃ福田とか向こう方面の発展はまるっきらないじゃないです

か。違いますか。馬場口大町線の発展だけのためにあそこにインターを下ろしたんですか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） その計画が甘木インターチェンジの計画であったり、当時の状況については把握してございません。申し訳ございません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 把握しちょらんでどうする。

今から先の322の開通にしても、いろんなみちづくりに、何でうちはこげな道を造ったっちゃろかっち、よく把握して、こういうことをしたらいかんち、考えるのが行政の役割でしょう。同じようなことを何回も何回も繰り返すとはおかしいでしょうが。考えてもみてください。朝倉インターにしても、杷木インターにしても、全部突き当たりですよ。あれからどうして各地区の活性化を図ろうと思っちゃる。どうやって過疎地からの脱却を図ろうとしちよる。そういうことを考えんと、これから先のみちづくりは、造っても造っても何もならんでしょう。違いますか。13やったかな、12やったかな、今造ろうとしよる道は。それが本当に役に立つのか、今後どんなまちづくりをしたいのかは、しっかり——まあ、まず聞こう。

杷木と朝倉の過疎地からの脱却、あの杷木、朝倉インターの突き当たりをどう利用しながら、そういうことを考えとるか聞きます。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 甘木インターにつきましては、先ほどから申ししておりますように、都市計画道路、馬場口大町線に突き当たっております。

また、朝倉インターチェンジ、これにつきましては、朝倉インターチェンジを下りまして、料金所を通りましたところの交差点、確かにそこが突き当たりというふうになっておりますけれども、その交差点までがインターチェンジであるというふうに思っておりますので、その前面の道路、県道甘木朝倉田主丸線については、南北にほかの自治体を結ぶ重要な幹線に接しているというふうに思っております。

また、杷木インターチェンジにつきましても、国道386号線の信号、そこまでがインターチェンジの敷地ということでございますので、これにつきましても、朝倉市の重要な幹線道路、国道386号線に接続しているという考えでございます。

また、そういったところで、どのようにしてまちづくりをしていくのかということでございますけれども、特に朝倉インターチェンジにつきましても、その付近には市庁舎であります、朝倉、それから杷木の支所、それから文化施設等が集約しております。

また、朝倉インターチェンジ、その付近には農地等も点在しておりますけれども、そういったところの土地利用も含めまして、その周辺に生活利便性を集約して、その地域の活性化を図っていくと、そういうふうな政策が必要ではないだろうかというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 自動車学校は跡地に倉庫ができましたよね。

朝倉市としては、工業団地なるものを今後造ろうと思いますか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） お答えいたします。

工業団地の考え方についてなんですけども、前回の議会でも答弁させていただいたところではありますが、市有の——市が所有するという意味で、工業団地というのは、昭和46年に制定されました農村地域工業等導入促進法、通称、農工法と言っておりますが、これにより市町村が農用地を先行取得し、工業団地として——（発言する者あり）法改正がありまして、現段階で工業団地を準備することはできなくなっている状況です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そうすりゃあ、朝倉の活性化を図るためには、どうしても民間の力が必要でしょ。違いますか。民間の力を何とかして、この朝倉の活性化を進めなければならぬでしょ。そうすると道路は肝心なんですよ。あそこの自動車学校跡地の倉庫が建ちました。あれが本格稼働するようになると、あの道は混みますよ。ほかに、あのBSの前も出勤時には非常に混みます。あの道は大事な道でしょう。あの道を広げて、福田、その他向こう蜷城、あそこの発展も考えるとすると、何とかみちづくりに力を入れないかん。

そして、民間の力を借りて何とか増やさないかん。そうすることで、固定資産税が増えるじゃないですか。そういう固定資産税を増やしながらか、朝倉の活性化を図るちゅうことは、あなたたちの仕事でしょうが。黙ってじーっとしちよくだけが、あなたたちの仕事ではない。いかにして、それは、基金やら見ると多い。八女を見ると少ない。だけれど、あそこは頑張りよる。みちづくりに関しては、私はそげん思います。何とかして、やっぱり朝倉市も、ちゃんと考えてみちづくりをしてほしいと思います。

もう一つ、甘木インターで突き当たることばかり言いましたが、けやき通りの突き当たりは一体どげんなるとやろうかをお尋ねします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） けやき通り、これにつきましては、都市計画道路の大塚柿原線と申しますが、そのけやき通りの東側につきましては、市道の一木堤線と、それから国道386号線に交差するまでの約370メートルが、今まだ未整備区間というふうになってございます。

これまで、用地の買収に時間を要しまして、思うように事業が進んでいない状況でございます。現在の用地交渉の詳細な状況についての発言は控えさせていただきますが、市としては、この区間の買収が済んだ後、速やかに工事着手していきたいというふうを考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 大体予定は。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） あくまでも今現在の予定でございます。今年度まだ補償の交渉が残っておりますので、その補償費の算出をさせていただきます、令和6年度に交渉、令和7年度に用地取得というふうなことで、スムーズに進んでいくとしますれば、令和8年、9年で工事にかかれるのではないだろうかというところのスケジュールをもって進めているところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしくお願ひします。あそこいつまんでんかかりよるけね、あそこに通じちよる水路に、大きな柳の木が生えて、ざまねえし、柳の木が大きくなって、隣の家まで行ちよる。そういうことが再三ありますので、そりゃあ土地取得も大変でしょうが、何とか力を、頑張って、何とかしてほしいと思ひます。よろしくお願ひします。

もう一つ聞きたかったけども、予定時間は過ぎましたので、地域防災計画について、次はお尋ねします。

地域防災計画18ページ。

災害応急対策の災害に関する情報の収集・伝達及び被害調査について尋ねます。

例えば、先日の大雨で、ひょうたん池の下の古賀の用水路が、早朝4時と7時に越水いたしました。膝上まで上がり、彼たちは、あれよりもずっと高いところに家がありますので、どげんなるこっちゃろかーち、自分の家から見よったそうです。早朝もあり、誰にも連絡しなかつたそうですが、途中で雨がやみましたので、だんだんとその水は引いていったけど、とても怖かつたと言っています。昭和池では、歩道側に流れ込んだ水が、歩道を浮かし、危険防止のネットを倒し、あの横の水路をじゃんじゃん流れ出したそうです。バイパスは通行止めとなりました。大体あのとき思ったと、この通行止めの指示は誰が出したつちやろうかと。

もう一つ不思議なこと。あその池の水がじゃんじゃん流れたときに、土木業者が来た、一番に。そして通行止めとなつた。この流れはどげなふうになるとですか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 通行止めの指示でございますが、交通規制に関しましては、基本的には警察、または道路管理者でございます。県土事務所のほうで指示をされたのかなと推察しておりますが、確認は取れておりません。

また、土木業者の件については、農林商工部長のほうからお答えいただきたいと思ひます。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 私のほうからですけども、この土木業者への連絡に関し



ても、申し訳ありませんけども、私どものほうで把握していないところです。すみません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） これは後で言いますが、日野議員の一般質問の折にも、非常に思ったんですけど、自分たちは感知していない。知りません。そういうことがあってはならないし、あそこはえらい危ないところですよ。たまたま西側が漏れたけよかったけど、今水漏れしよる中心部が漏れた日にゃあ、あそこの3メートル下ある家は全滅しましたよ。そんなんくらいのことは分かっちゃおうでしょう。

あんとき、これは区会長から聞いたわけではないですが、区会長の電話は鳴りっぱなしだったそうです、住民から。区会長はその危険を思って、あの下の地区の人に一軒一軒危ないですちゅうのを言うて回ったそうです。えらいな心労でしたでしょう。あなたたちは知らなかったと言えればいい。俺たちはそれに感知していないと言えればいい。そんなことで大体いいと思っちゃるとやろかち私は思うったいね。だけん、どげん思う。知らなかったでいいとねち言いよると。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 被災の状況でありますとか、あと、危険箇所の情報とかが入った場合には、その地域を限定しての防災行政無線ですとか、そういったことで今回の大雨の日も対処したところでございます。

ですので、市のほうに情報が入りましたら、そういう情報等を提供したいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） じゃあ、池が壊れて水がじゃんじゃん流れ出してから動くとかかぬ。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 危険があるというような情報が今回も警察を通じて、寒水川流域なども情報が入りましたので、その河川から離れていただく、または、その地域の方への避難を促すというような情報を提供したわけです。

災害が起こってからすればいいというふうな認識は持っておりません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） じゃあ、どういう認識である。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 万が一にも人的被害を出さないために早めの避難をお願いするとともに、そういう情報があったら早急にお知らせをしたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） いいですか、立石には有線放送がないんですよ。コミュニティか

ら区会長へ、区会長からそれぞれの役員へ、それぞれの役員から住民へと流れていきます。大体それをせないかんのに、市役所に情報を流すとは誰がどのようにして流すんですか。今、池が壊れちよりますけど、ちょっと見てきてくださいち、情報を防災課に流すんですか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 情報の提供につきましては、防災交通課に限らず、それ以外の部署でも、いろんな情報を収集して対応させていただいているところでございます。

今回のように危険箇所があるということでございましたら、積極的に情報提供いただければと思いますが、そのときそのときで、全てに対応ができると、情報が集まるということではございませんが、集まって危険が及ぶ恐れがあるというときにつきましては、その地区に対して防災行政無線を使いまして放送させていただきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） いつ防災行政無線を流す。どんな状況で流す。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） まずは、天候、気象等の情報を集めて、そういう危険が及ぶ前の段階で、避難を促すというふうなことを努めていきたいと思っております。

今回も4時、7時の段階で危険だったというふうにおっしゃいましたけども、その時点では、避難指示などは一旦出させていただいている状況ではございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 古賀の話よね、今の。古賀。ひょうたん池の下の話よね、4時、7時に水が上がったちゅうの、越水したちゅうとは。その時点で流したっち、流れても何もありゃせん。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 今回の大雨につきましては、それぞれ地域ごとで、例えば土砂災害の恐れがあるとかいうところにつきまして、早めに避難指示を出させていただきまして、今、立石地区のお話でございますけれども、5時15分に甘木地区、立石地区、安川地区、秋月地区、上秋月地区、美奈宜の杜地区、三奈木地区、朝倉地区、宮野地区、杷木地域全体に避難指示を発令させていただいております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 何と言っていいか分からん。もう少し、例えば、昭和池でいえば、昭和池下流3メートルの段差があるので、この人たちは早く逃げないかんやったとよ。あの越水が西側の歩道寄りじゃなくて、もうちょっと真ん中辺りで下りれば大変なことになったっちゃけん。だけん、その辺はちょっと考えて。

今、警戒レベルの出し方が、1、2、3、4、5ちなったやんね。そして、4まで出た

ら絶対避難しなさいよになった。これは、住民にはとても分かりやすくなったと思うと。今まで避難指示とか警戒とかいろんな言葉でしよったばってん、4になったらもう逃げなさいよちゅうのは、えらい分かりやすくなったと、それはよかったと思います。

じゃあ、避難指示や避難者の誘導はどげんしようと思ひよるとかちゅうのを聞きたいし、誘導の標識やら、避難場所の設定とか、避難所などの案内図は、表示板は大体どげんなつちよるとやろかち聞きます。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 避難の情報につきましては、市内全域に整備しております防災行政無線や地域放送、緊急速報メール、市のホームページ、消防団の広報活動など、可能な限りの情報伝達手段をもって、情報伝達を行わせていただいているところです。

また、全ての指定避難所に表示板を設置しておりますが、自主防災マップでの避難場所や経路の確認は、あらかじめ身の周りの危険な場所、避難場所、避難経路など、家族や近所の方と話して確認いただければというふうに思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私も大概大概、毎回毎回同じことを聞くけん、大概大概同じ答弁ばかりで嫌にはなつちよるけど、少々諦めようかとも思ったけれど、諦めることはいかん。物事を明らかにしながら、どうやって住民の皆さんの安全を守るかが大事じゃろ。あんな今、地域放送のことを言われましたが、何で地域放送を言うと、ないところもあるのに。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 情報の伝達につきましては、いろんな方法を使ってお伝えすることが大事だというふうに思っております。メールをお使いになる方、ならない方、また有線放送があるところないところ、いろいろございますけれども、いろんな方法を使ってお伝えをするという一つの意味合いで、地域放送というのを申し上げさせていただきました。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どうぞ、地域放送の設置もよろしくお願ひします。幾ら言うても防災メールまもるくんとか、その他のいろいろな答弁になるとは思ひますが、地域放送の考え方も一人一人に伝達するためには、地域放送はとても大事だと思ひますので、その辺りよろしくお願ひします。

もう一点、昨日、日野議員が自主避難所開設のことについて質問されました。答弁は覚えておりますか。どうぞ。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 自主避難所についての運営の状況など、お答えをさせていただいたことは記憶しております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君）　なんと、こげん言ったとよ。「どこが自主避難所として開設しているかが分からない。」そんぐらいのことは分かっちゃかないかんやろう。あんた、部長は、あれ、分かります。市の収容人数。

○議長（小島清人君）　総務部長。

○総務部長（平田龍次君）　それぞれの指定避難所についての収容人数というのは定めておりますので、一例として、ピーポートは650ということになっております。39か所の避難所の、すみません、総計を私が手元に持っておりませんで、今でもスマホか何かで確認しないと、すみません、宙に覚えておりません。

○議長（小島清人君）　14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君）　いいね、こげん言うたと。「どこが自主避難所として開設しているかは分からない。」そのとき私の聞いた雰囲気は、そんなら大きい災害が起きたときに「自主避難所が開いちよります、どっかそっちのほうにお願いします。」ちゅう、いるやろ、自主避難所がどこか開いちよるかも分からんごたあな、ていたらくじゃ。今後、あんたたちよく言うと、書いちよったが、自助共助公助、これをしっかりしていこうと思えば、あなたたちが自主避難所の開設も分からんでどうする。フレアスやなかったあそこがいっぱいになって、「すみません、立石の方は今、立石の避難所が開いとりますので、あそこに逃げてもらえませんか。」ちゅうこともできんやろ。俺たちはどこの避難所が開いとるかも分からんぐらいのこっちゃ。

今後、市民を守ることは、私はできんち思うが、あの答弁があんまりにていたらくやっただけんびっくりした。どうですか。

○議長（小島清人君）　総務部長。

○総務部長（平田龍次君）　各コミュニティセンターなどで自主的に開設をしていただいているところなどについては、情報をいただいておりますので、把握をしている分がございましたが、区単位などで細かく自主避難所を開いてある場合で、市のほうに御連絡いただいている分については、把握ができていないとそういう意味でのお答えでした。

○議長（小島清人君）　14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君）　それならいい。でも、昨日の答弁はあまりにも誠意がなかった。あのペット同行もそうよ。何かで鼻でくくったような答弁ばかりして、あれじゃ市民は納得しませんよ。何のためにペット同伴すると思う。家にそのまんまペットを置いちよったら大変やけやろもん。そりゃ、あんたたちの言うごつ、ペットだけ置くところないち言いよった。軒下しかないち言いよった。それでも構わんやん、軒下だけでも。そのペットを連れてくる人に、ゲージを持ってその中にペットを入れてください。申し訳ないけど、軒下のここには自分が確実に世話をしてください。そうすれば、ペットは持って避難できますちゅうぐらい答弁が、何でできんやっただ。

○議長（小島清人君）　総務部長。

○総務部長（平田龍次君） お答えさせていただいたのは、ペット専用で避難できるスペースが現在、朝倉支所の公用車の車庫しかないという状況でございます。

それからもう一つは、同行避難の場合、同伴避難ではなくて、同行避難の場合であれば、各避難所で屋外にはなりますが、そこでペットについても避難いただくということについては認めておまして、今回もピーポートにはそのようにお連れになった方もいらっしゃったというふうに聞いております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そのように誠意を持った答弁が必要です。鼻をくくったように、避難所は役所では分かりませんか、ぽんと言ってみたり、ペットは軒下なら大丈夫ですけど、どこそこの倉庫の1か所だけしかありませんとかじゃなくて、もっと誠意を持った答弁が必要でしょう。議員が市民の皆様から委託を受けて、ペットの相談を日野さんは受けたわけでしょう。そして、ここで聞いとるとでしようが。そうすれば、やっぱり誠意を持った答弁を今後もお願いしたいと思いますが、このままでいきますか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 答弁の表現でよくないところがあった場合については、申し訳ございません。今後も、答弁については、こちらの執行部の真意が伝わるよう丁寧に御説明をさせていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そうすると、私たちも職員の皆さんが頑張るとるけん、何とか協力せないかん。例えば、避難所運営にしても大変なところがあるでしょう。例えば、ピーポートなんか何人も何人やったかな、650人、これを何人で運営するかは知らん。日頃からどげな避難所のシミュレーションをして計画しよるかは知らん。しかし、どうしても足りないときとか、やっぱり誰かに応援をお願いせないかんでしょう。そういうときに、行政と市民と地域は力を合わせてやっていかないとですよ。そんなときに、そんな答弁をされた日には、私だけかな、こげん思ったとは。ほかの人も思っちゃると思うけどと思しますので、よろしくお願ひします。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 次に、不燃物回収についてお尋ねいたします。

知人の家に行ったときに、彼女は高齢なんです。一人暮らし。自転車にも乗らんし車の免許も返したと。玄関で「ごめんください」ちゅうたら、全然答えがねえけん、裏のほうに回ったと、そしたら、不燃物が山積みになっておったそうです。

今は、老人会なんかの力で不燃物を、立石でいえば月3回、時間を決めて皆さん自転車やら車やらで持ってきます。そして、何とか立派に分別収集しながらそれを持っていくちしておりますが、体の不自由な人、車のない人、どうしてもその時間に不燃物をそこに持っていけない人などがやっぱりいらっしゃると思っておりますので、その方々の対応についてお

尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市民環境部長。

○市民環境部長（石田裕二君） 不燃物の回収につきましては、やはり市内どの地域におきましても、高齢者の方、そういったところにつきましては、地域の方の御協力で実質的には成り立っているというふうに認識しております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そう、そうなんです。だけれども、私が聞いたかったのは、障害者とか高齢者とかで持っていけない人はどう考えてありますか。

○議長（小島清人君） 市民環境部長。

○市民環境部長（石田裕二君） 方法として、市のほうとしては、この状況をどうするべきかということについては、内部でも話をしている状況はあります。

まずは、箇所数を増やして持っていくところが少しでも近くなったらいいんじゃないかとか、ということも考えてはおるんですけども、不燃物回収につきましては、今15分別というような比較的広いスペースも必要としているところもあり、また、道具と申しますか、容器を持ち込む、当日、そして回収というように3日間で1つのセットのようになっておりますので、市内全域を業者を委託しまして配置をしていくという部分でいくと、なかなか箇所数も増やしきれないというのが実情でございます。ですので、今後とも他の自治体等も含めまして、どういう方法をやっているか、また、福岡市辺りも6月にもお答えさせていただきましたけども、福岡の方法では、今現在は朝倉市としてはそのまま取り込めないというところもありますので、ほかにも朝倉市のように15分別というようなリサイクルをできるだけやっていくというような考えのところ、もっといい方法を取れているところがないか、そういったところについてはアンテナを広げて調べていかなければならないというようなところで、現時点としては有効な方法が思いついていない状況でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 15分別ちゅうのはすごいです、朝倉。すごいとは思いますが、これが、私が言いよるとは、しきらん人、要はしちやなかつた分別とか、山積みになっちゃった何もかんも、それを近所の人善意とか、民生委員の善意だけに頼るわけにはいかんでしょうちゅうのが私の意見。もっと言えば、もう4分になったけん。1か月に1回でもいいけん、今後、今じゃなくても、障害を持つとる人、どうしても出しきらん人は、1か月に1回とか2か月に1回ぐらいは、不燃物の分別収集をするべきではないかちゅう考えです。これは、今のところ、小郡と大刀洗がやってあるんじゃないですか、よく分かりません。

○議長（小島清人君） 市民環境部長。

○市民環境部長（石田裕二君） 地域の協力のおかげというふうに、それはもう大きな力

だと思っております。

また、調べてみますと、シルバー人材センターのほうがちょっと対象を絞った形ではありますけども、65歳以上の高齢者世帯、また障害をお持ちの一人暮らしの方を対象にワンコインサービスというものをされてあります。これにつきましては、どういうことをやるというような限られたものではなくて、いろんなお願い事があれば、ワンコインで行いますよと。何でもかんでもというわけでもありませんけども、そういったサービスもありますので、できればそういったものの活用につきましても検討いただけると、市としても助かるというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） ワンコインとは100円。

○議長（小島清人君） 市民環境部長。

○市民環境部長（石田裕二君） 失礼いたしました。ワンコインは500円という設定でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それは、今度の何かの折に書かせてもらいますが、こういうサービスもあっているちゅうことは書かせていただきます。

しかし、昔覚えとらん、生ごみは、全然市は集めに来きりよらんやったとよ。各自で何とかせないかんやったと。それが今では市民サービスに生ごみの回収もできるようになり、生ごみを燃やすとこもできるようになって、だんだん生活は良くなってきました。今後、やはり不燃物の回収もどこかで考えないかん時期が来ると思いますので、頭の中に入れて、今後どうしたいかちゅうのは考えるべきと思いますが、答弁をお願いします。

○議長（小島清人君） 市民環境部長。

○市民環境部長（石田裕二君） これに、議員おっしゃいましたこと以外についても、朝倉市全体高齢化が進んでいるというのは現実でございますので、今の自分の部署で言いますと、ごみの収集そういった部分、可燃ごみ、不燃ごみ、広く高齢者の方、障害をお持ちの方、どうしていったらいいのかということについては考えていきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしくお願ひいたします。

もう一つは、これは、私がコミュニティの役員会に出るもんですから、コミュニティの中でよく話が出るんですよ。外国人の出すごみの中には、缶やらビンやら不燃物が混じるとるちゅう情報があります。これは、昔はコロナになる前は、何か事業所と話して、ごみの出し方やらも指導がありよったそうです。それで、コロナになって、そういうことがなくなって、生ごみの中にいろんなものを入れてしまう。市民の皆さんであれば、確実に生ごみしか出したらいかんちゅうのは分かっているでしょうけど、外国人の方にはなかなかそこまで——だから、外国人のいらっしゃるアパートなんかのごみは、非常に不燃物が混

じったりしとるそうですので、そこら辺の教育のほうもよろしく願いしておきます。

○議長（小島清人君） 市民環境部長。

○市民環境部長（石田裕二君） 可燃ごみに燃えないものが混じりますと、ごみ焼却場……。

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩します。11時10分に再開いたします。

午前11時1分休憩